



TEL 〇七六二一五二五五
FAX 〇七六二一六二五五〇
E-mail okshoten@poem.ocn.ne.jp

平成十七年一月二十日
〒九三二〇八〇四
高岡市閭屋町四十
有限会社 沖商店発
2015.01.20

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょうか』そんなことを皆様と一緒に考えたい。そして皆様の意見を頂きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。

一 初夢

あけましておめでとございます。

昨年は災害の多い年でした。昨年を一字で表すなら「災」と報道されてきました。或る人曰く「天から台風、地から地震、人からテロ、森から熊、そしてとどめは海から津波」と昨年の災害を表現していました。特に、この度のスマトラ沖の地震による津波の災害は目を覆うものがあります。何故に自然(神・仏)はこんなに人間を苦しめるのかと恨みたくありません。

でも、自然はあくまで自然に推移しているのです。人間に災害だけでなく恵みも与えているのです。否、自然は人間に大いなる恵みも与えています。またらず災害はそれに比べると微々たるものです。災害は歓迎すべきものではありませんが、自然が人間に与えている大いなる恵みとともに、受け取らざるを得ないものなのではないでしょうか。言い換えれば、自然(神・仏)は人間に大いなる恵みを与え(喜びを与え、時々、自然(神・仏)への感謝の念を思い起こさせる意味で、災害を与え(試練を与え、陰に陽に我々人間を育んでいるのだと思われませんか。

本年、平成一七年(二〇〇五年)はどのような年になるのか判りません。でも、何があるろうと(どんな困難・苦勞があるろうと)神・仏(自然)の試練と受け止め、負けずに頑張つて行こうと思います。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本題に入ります。

夢。将来への期待・希望の意味の夢ではなく、寝ている時にみる夢のことです。

私は、時折、嫌な夢を見ます。嫌な夢を見る時は日常生活上なにか問題を抱えて悩んでいる時とか、体調が悪い時とかと聞いていますが、私には日常生活上、そんなに悩みやストレスはありませんし、体調が悪い時もありません。それは皆様がご存知の通りです。でも、時折嫌な夢をみます。みる夢のパターンは決まっています、それには四種類あります。

その一、高校時代の夢

★今日の授業の時間割りも分からず、教科書もなく、自分はなにをするために今通学しているのだろうかと思ひながら学校に向かって行って、学校へ着いたら自分の教室・自分の席が分からず、自分の存在感に疑問と焦れつたさを感じ、それに苛まれる。

★試験直前、皆傍で次の試験科目の出題を予想し、それに対して正しい答えを確かめ合っているのですが、私には、何のこともやら訳がわからず自分だけ「置いてき抛り」、それこそ、頭の中、真っ白という状況で、その空しさと焦れつたさに苛まれる。

その二、行詰りの夢

★車を運転中、近道しようと或る角を曲がり、小路をいくつか曲がりながらしばらく行くと、通行止めになっている。あわてて方向転換して元の道に戻ろうとすると、いつの間にか先程とは違った道になっている。その行き先が通行止めになっている。また方向転換して元へ戻ろうとしますが、また先程とは違った道になっている。その行き先が通行止めになっている。せめてひとつ先の前の道に出ようとするが、ほとんど通行止めにぶつかり進退窮まる。周りに得体の知れない者(悪霊)がうごめいている。

★或る所へ行こうと歩いている。広い通りから路地へ入る。両側が塀になった道の角を幾つも曲がって進んで行くうちに行き止まりになる。仕方なく元の道へ戻ろうと今来た通りに道を戻りますが、角を曲がる毎に行き止まりになっていて、道がだんだん細くなり迷路に嵌った感じ。そして最後は帰る道がなく細い細い路地に閉じ込められ、両脇の家の窓には得体の知れない者(悪霊)がうごめいている。

★皆で楽しく買い物に行く。仲間は或る時は家族だったたり、或る時は友達同士だったたり。デパート(建物)の階段(エレベーター)で屋上まで登って行つ

て、そろそろ帰ろうと一階まで来ると出口が閉まっている。二階にも出れるドアがあるので二階へ行くがそこも閉まっている。非常口を求めてもつと上の階へ行くが出口がない。そのうち何時の間にか自分ひとりになっている。焦りを覚えながら最後の手段として屋上へ出ようと階段を上り詰めると、屋上への出口はなく、先程屋上へ出た出口はコンクリート張りの天井になっている。諦めて先程閉っていた一階や二階の出口を破つても出ようと戻りかけると、階段が途中でコンクリートの壁で行き止まりになっている。最後は上へも下へも行けない階段にひとり閉じ込められている。

その三、金縛りと夢のまた夢

★自分が寝ていることは自覚している。そのうち何者か(物質を持たない霊的なもの)が近づいて来る気配を感じる(嫌な感じ)。それが自分の肉体を押し付け身動きできなくする。なんとかして少しでも動こうとするがどうにもならない。苦しくて目が覚める。

★何度も金縛りを経験するうち、その何者か判らないものに従つてみようとして試みました。訳のわからない被征服感、時には、性的な被征服感も感じさせられました。

★また、いつもの通り金縛りに会い、これはいつもの金縛りだと自覚し、何とかその悪夢から覚めました。ところがそれがまた夢の中だったのです。

その四、ショットができない夢

★心算しくゴルフ場に来てティーグラウンドに立っています。皆さんティーショットして私の番になりました。ティーアップしていざ球を打とうとすると、何故か後ろに垣根が迫っていて(場面によっては背後に岩壁があつてフォロースルーがとれない)スイングできません。皆さんティーショットした後なのに自分だけができないでとても焦っている。

★ナイスショットしてフェアウェイのど真ん中へ行きました。ところが行って見ると、何故か球が石に囲まれていて(大きい石の上にあつて・大木の下にあつて)スイングできません。前が空いているのにショットができない焦りに苛まれる。

以上、その時の状況、相手の姿形はいろいろですが、嫌な夢のパターンは決まつてこの四パターンです。何故こんな夢をみるのか今でも判りません。特に、行詰りの夢は、舞台背景・状況設定は違つ

ても内容は全く同じ、最後は狭い場所に追い詰められているのです。

ところが、四日に見た初夢は、その悪夢の殻を打破してくれました。以下、内容を紹介します。

私はゴルフをしていました。ティーショットをナイスショットして球はフェアウェイのど真ん中へ行きました。ところが行って見ると、いつもの夢の通り、何故か球が大きい石の上にあつてスイングできません。いつもならここで焦心とともに目が覚めるのですが、何故か今回は「これはいつもの夢だ」と感じました。そして「どうせ夢なら出来ない事もできるはず」と石の上の球をスプーンで打ちました。

ナイスショットでロングホール、ツーン。意気揚々とグリーンに向いました。ところがいつの間にか親友と道を歩いていました。二人でどこへ何をしに行こうとしていたのかは確かではありません。そのうち「両側が塀になった道の角を幾つも曲がって進んで行くうちに行き止まりになる。仕方なく元の道へ戻ろうと今来た通りに道を戻りますが、角を曲がる毎に行き止まりになっていて」という例の悪夢の筋書き通りに推移しました。そして路地の奥に一室があり、そこに数人の存在(悪霊)を感じました。

ところが今回は、その中のひとり(中年婦人)に私が「出口を教えてください」と懇願すると「わかったよ」と言う感じで八方塞ぎになっている壁の一部を押し開けてくれました。その二間ほど向うに、またドアがありました。「この後、ドアを押し開け押し開け進んで行きなさい」とその中年婦人が教えてくれました。私たちは前のドアを押し開けると塀に囲まれた百坪ほどの庭に出ました。正面にドアが見えます。私たちはそのドアに走り寄りそのドアを押し開きました。すると先程私がプレーしていたゴルフ場に出ました。私はもうひとつドアを見つけたかと思いましたが、私の親友はそれで満足とはかりゴルフ場を駆け回っている、そこで目が覚めました。

頭は清々しく心は晴れ晴れして、何故か、今後二度と「行詰りの夢」と「ショットができない夢」の二つの悪夢には悩まされたいという思いを確信しました。

今年「破妄開進」と書初めます。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail 062525@poem.ocn.ne.jp

にこにこ通信への意見は全て個人的な連絡先(個人メール)へ送ってください。